



ジェンダー平等 推進部門 便り

2022年9月5日発行

神戸大学 インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター ジェンダー平等推進部門 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 Tel: 078-803-5471 /5017



神戸大学ユネスコチェア 2022年度教育プログラム 国際会議が開催されます

神戸大学は2018年にはじめて「ユネスコチェア」がパリのユネスコに認証され、同年の2月に神戸大学ユネスコチェア「ジェンダーや脆弱性に配慮した減災対策」がはじまりました。「ユネスコチェア」は聞きなれない言葉ですが、簡単にいうと、高等教育機関による研究と教育のネットワークです。現在、世界に902ものユネスコチェアが存在しますが、それぞれは特定の研究テーマや目的を持って、パートナー機関と活動を追求しています。多くのユネスコチェアと同様に、神戸大学ユネスコチェアも国境を越えてネットワークを構築しています。災害の多い東南アジアを地域とし、インドネシアのガジャマダ大学、マレーシアのトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学と NGO のマーシー・マレーシア、台湾の高雄科技大学、タイのタマサート大学とメーファールアン大学をパートナーとしています。

第2期神戸大学ユネスコチェア「ジェンダー、脆弱性、ウェルビーイングを中心に据えた減災対策」は、1期目の成果をさらに伸ばすことを目指しています。新型コロナウイルス感染拡大の世界的な影響を考え、キーワードに「ウェルビーイング」を加え、ジェンダーの視点からコロナの影響を検証していくことにしています。教育プログラムもその目的に沿うように企画しています。

今回の教育プログラムは、6大学の学生の参加からなるオンライン国際会議です。二日間にわたり、タイ、インドネシア、マレーシア、台湾と神戸大学の学生がグループワークを通して与えられたテーマについて議論し、最後にみんなの前でグループ発表をします。使用言語は英語ですが、どの国も英語を第一言語としません。みんながお互いを助け合って、笑って、場合によっては泣いて、そして発表が出来上がるころには友情も生まれているかもしれません。今年のテーマは、「ポストコロナの世界に生きて～私たちがつくりたい安全・安心」です。高校生、大学生あるいは大学院生として新型コロナウイルス感染拡大を体験したみなさんは、将来に対して、どのようなビジョンを持っているのでしょうか。その世界にはどのような安全や安心があるのでしょうか。男性も女性もほかの性やジェンダーの人の平等は実現できているのでしょうか。どの人もヘルスケアへのアクセスはできているのでしょうか。あなた自身のビジョンはいかがでしょうか？

神戸大学ユネスコチェアホルダー・ジェンダー平等推進部門 コーディネーター アレキサンダー ロニー

【募集要項】

- 応募資格 神戸大学の学生（院生を含む）。英語で会議における発表や議論ができる。全日程に参加できる。
このテーマや神戸大学ユネスコチェアの活動に興味がある者。
- 募集人員 5～10名程度（神戸大学生・大学院生）
- 実施期間 2022年12月3日（土）～ 12月4日（日） 10:30～16:30（両日）
事前研修 2022年11月中予定
振り返り報告会 未定
- 出願書類及び詳しい情報は以下 URL をクリックしてください。
<https://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/project/unesco/news/2022/post-1.html>
※国際文化科学研究科・人間発達環境学研究所・国際人間科学部の学生は GEMs をお使い下さい。
- 申請期間 2022年10月1日（土）～ 10月14日（金）

ジェンダー平等推進部門協力教員のご紹介

※五十音順

齊藤 善久 国際協力研究科 准教授

日本とベトナムの労働法が専門です。その一環で、外国人技能実習生などの移民労働者や難民申請者の支援と研究を行っています。

1990年代の半ばにベトナム法の研究を志して現地に滞在しましたが、言葉が分かりません。そこで、観光客に絵葉書を買っていた女の子（チュンさん）に頼んでベトナム語を教えてもらいました。その結果、ハノイの物売り・物乞いコミュニティーの中で「チュンの生徒」として認知され、現在に至るまで家族的な関係が続いています。

彼らの多くは、農村からの非正規出稼ぎ労働者で、住居も借りにくく、行政サービスも受けづらい不安定な立場です。商売も警察の目を気にしながら行います。現在の日本において偏見の目で見られながら暮らし、ときに「不法残留」、「不法就労」状態に陥る移民労働者と、出身地も置かれた状況も重なる部分があります。そういうわけで、現在私が日本で移民労働者の支援や研究に携わっているのは、ハノイでの日常の延長のようなところがあります。

このたびは、ジェンダー平等推進部門の協力教員を務めさせていただくことになりました。本学で、どんな性的属性・特徴を持つ人も偏見や無自覚な差別意識・差別構造の中で理不尽な困難を強いられず、十全に実力を発揮でき評価される環境を実現するために貢献できれば幸いです。



古谷 真樹 人間発達環境学研究科 准教授

日本人の睡眠時間は世界で最も短く、6時間未満の人が4割を占めています。睡眠確保の妨げとなっている理由として、男性の30代・40代は「仕事」、女性の30代は「育児」を3人に1人があげています。幼児の早寝・早起き・朝ごはんに対する意識は年々向上し、就床・起床時刻は早くなっていますが、そのお父さんやお母さんの多くは十分に睡眠がとれていない現状にあります。睡眠不足は認知能力の低下をはじめ生活習慣病やうつ病などの精神疾患のリスクをもたらします。私は生活リズムの整え方やよく眠る方法を伝える健康教育プログラムを考案・検証したり、様々な生理指標から不眠を予測する研究なども行ったりしながら、子どもから高齢者まで心身ともに健康に過ごせることを目指しています。

2013年の着任以来、平日は母子生活です。休日や出張などには県外から夫や親がきてくれています。2020年にコロナウイルス感染症拡大防止のために小学校が休校になった時、これまでいかに学校や学童保育、遠方の家族に助けられていたかを痛感しました。周囲の支えがあるから仕事に集中できますし、家庭で落ち着いて子どもと向きあうことができます。ワークライフバランスを保つには個人の努力で何とかなる部分は少なく、周囲の理解と情報やサービスといった具体的な支援が不可欠だと思います。

開催報告

理系志望の女子向けオープンキャンパス 2022 を開催しました

2020年度、2021年度はオンデマンドでの資料の配信のみとなっていた理系志望のオープンキャンパスですが、2022年度は初の試みで、女性学生と女子高校生のオンライン交流会をプログラムに組み込み、8月10日にZoomで実施しました。

オープンキャンパス前半は、学部長による学部紹介、ジェンダー平等推進部門長からの挨拶に続き、女性教員による学科の紹介や研究紹介が行われました。後半は各学部ともブレイクアウトルームを使って、学科毎に女性学生と女子高校生の交流会を実施しました。

コロナ禍での開催となったためオンラインでのオープンキャンパスとなりましたが遠隔地からの出席もあり、オンラインのメリットを感じた企画でもありました。神戸大学及び理系の進路選択の魅力を伝える良い機会となりました。

高校生のみなさんからも「参加してよかった!」「こういう機会をまた設けてほしい」といった声とともに、「大学生の先輩の方の説明や質問への返しがとてもお上手で、自分もあんなふうになりたいなと強く思うことができていい機会になりました」という、当日交流会を進めてくださった女性学生さんへの感謝の言葉をたくさんいただきました。

当日オンライン交流会を進行いただいた、海洋政策科学部、理学部、工学部の女性学生のみなさんにこの場を借りてお礼申し上げます! ありがとうございました!

10:00 ~ 11:30

海洋政策科学部 (女子高校生参加者 23名)

13:00 ~ 14:30

理学部 (女子高校生参加者 30名)

15:00 ~ 16:30

工学部 (女子高校生参加者 37名)

参加報告

7月28日(木) 大阪府立国際会議場で開催された日経STEAM 2022 シンポジウムに参加しました

日経STEAM 2022 シンポジウムは、関西圏の高校生・大学生を対象に、SDGsへの取組や女性研究者の活躍を更に推進することを目指して開催されました。午前の部は、「学生サミット 未来の地球会議」と題し、23チーム(国内外の高校生や大学生から構成される)が、未来の地球を守る方法について様々な切り口で発表しました。午後は、11大学の女性教員が次世代の女性研究者に向けて意見交換を行う「女性研究者育成座談会」が開催され、本学からは佐藤春実先生(人間発達環境学研究科)が登壇されました。「女性だったことでプラスだったこと? マイナスだったことは?」「研究を進めていく上で壁を感じた時は?」「逆境を感じた時は、どんな時?」「自分が学んだことと違うことはあるか?」「複数の研究領域は必要か?」等、高校生からの質問に対し、登壇された先生方はご自身の経験を基に語られました。

シンポジウムには多数の高校生が参加しており、神戸大学ブースには、「神戸大学の志入試について教えてください」、「入学したらどのような勉強ができるの?」、「こんな研究したいけどどの学部に行くのがよいのか教えてほしい」、といった様々な質問が投げかけられ、入試課の方とともに対応しました。積極的な高校生の活動にエネルギーをもらった一日でした。(インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター ジェンダー平等推進部門)



「女性研究者育成座談会で話される佐藤春実先生」「女子高校生からの質問に対応する入試課スタッフ」

ジェンダー平等推進部門にご意見・ご要望がありましたら、ホームページのお問い合わせからご意見箱を使ってお送りください。みなさまからのご意見・ご要望お待ちしております。

ジェンダー平等推進部門HP <http://www.office.kobe-u.ac.jp/opge-kyodo-sankaku/>

